

市に寄せられた意見の一部紹介（手紙、パブリックコメント）

●第4次松本市多文化共生推進プラン（案）に対するパブリックコメント

期間：令和7年11月～12月（30日間）

結果：17人から30件の意見あり

説明：30件中19件はプランに反映、同一意見、参考とする意見であったが、残り11件はプランそのものとは別に、国の制度への要望や海外の例から治安悪化を不安視する意見等あり。

●多文化共生等に関する市長への手紙

期間：令和7年度～令和8年度（8月末現在）

件数：4件

説明：条例制定に期待する意見があった一方、3件は積極的な受入れに慎重であったり、実効性あるリスク管理・安全管理を求める意見などあり。

ここでは、上記で寄せられた意見の一部を紹介します。

1	基本理念にある「多様性が活力になるまち」という表現だけでは、抽象的で美し過ぎるのではと感じる。 多文化共生は誰にとって、どのような点で嬉しいのかということをもう少しプランの中（あるいは外）で言及してもよいのではないかな。 市民の行動原理の1つは利己的な活動であるので、多文化共生は市民（私）にこんな利益をもたらしてくれるのだと訴えることは、第4次プランの目標達成上重要と考える。
2	外国人集住地区の住民の方が、外国人に対してルールやマナーの問題で危惧していることは理解できる。留学生の中にもいろいろな人間がいる。日本で生計を立て、住み続けていただきたい方もいれば、学習意欲もなく、日本のマナーを守ろうともしない不良留学生が一定数いるのも事実。日本語教員として、そういった面も根気強く指導しているが限界がある。行政は、そういった現実も理解した上でプランを作成いただきたい。日本語教員としては、ともすれば最低限の日本のマナー等を教育し、日本で働き続けるには何が必要かを教育することがメインとなっている。 真の多文化共生実現には、理念や理想だけではなく、また有識者の意見をなぞるだけでなく、実際に外国人にさまざまな教育を行っている事業所等に充分なりソースを投入することが肝要と考える。
3	他県の街では、不法移民問題や治安の悪化、独自のコミュニティを作り、好き勝手に生活するようなことが問題になっている。これらの問題への対応が、第4次プランでは示されていないことが問題点。 郷に入れば郷に従うことが日本人の生活の知恵であったり、お互いが争いなく上手くいくコツであったと思う。外国人の方達の中には、自分達の宗教や考えは絶対で、相手に合わせようとする気持ちは全くなく、郷に入れば郷が俺達に従え！という現実が世界各地で起きている。日本人の思い遣りのある対応だけでは、めちゃくちゃになることは目に見えている。受け入れる前にしっかりとした議論を重ね美しい松本市が存在できるようにしなければならないと思う。

4	時代の流れもあり多様性はしょうがないと思うが、なぜ松本市が多文化共生を推進するのか全く分からない。日本に来る海外の方は、現在の治安・文化・食事など日本らしさを体験しに訪れて、この環境に感動して移住を考えてもらえるのだと思う。しかし、目線を海外ベースに変えていってしまうと、日本らしさは損なわれる。そして、日本として松本市として推進してしまうと、違う目的で来られる方が間違いなく来るでしょう。日本の当たり前と海外の当たり前は全く違う。海外在住経験のある私はそれを実感出来る。身の危険を感じる事など当たりまえに起きる。そのようなことをする海外の方にとって日本は、犯罪天国である。こんなに無警戒な国は無い。来てくださいと募集をかければ皆んな喜んでくるだろう、初めは良いかも知れないが慣れてくれば歯止めが効かなくなる。 今やるべき事は、自然に増えていく海外の方と住民との摩擦をどの様に取り持つかである。こちらが理解するのではなく日本の当たり前を理解してもらう努力をしてもらう事。魅力的な日本だからこそ、外国人観光客が来ている。孫子の代まで安全な生活を送れる環境を守ることが必要
5	「多文化共生」の理念には理解を示すが、安易に外国人の受け入れ数を拡大する方向性に対しては、将来の松本市の安全と秩序を守る立場から強く反対する。私は、現在松本市に暮らす外国人住民の方々を排斥したいわけでも、追い出したいわけでもない。むしろ、縁あって共に暮らす隣人として、摩擦なく平和に仲良くしていきたいと願っている。しかし、欧州等の事例や国内で起きている問題を見れば明らかなように、受け入れの「数」と「質」の管理を誤れば、現在良好な関係にある地域社会さえも崩壊しかねない。市民の生命と財産、そして日本の文化を守るため、受け入れ基準の厳格化と、国に対する移民政策の見直し要請を強く求める。住民との調和を守るための新規受け入れの厳格化 ルールを守り地域に溶け込んでいる、現住の外国人住民との良好な関係を維持するためにも、無秩序な新規受け入れは避けるべきだ。急激に数が増えれば、外国人コミュニティ内での規律が保てなくなり、結果として「外国人全体」への不信感が地域に生まれてしまう。これは、真面目に暮らしている既存の外国人住民にとっても不幸なこと。「誰でも受け入れる」のではなく、「日本のルールを尊重し、日本語を習得し、地域に貢献できる質の高い外国人」に限定して受け入れるよう、審査と条件を厳格化してほしい。きれいごとの「多文化共生」ではなく、現実のリスクを直視した「秩序ある厳格な管理」が必要だ。今いる善良な外国人住民と日本人が共に平和に暮らすためにも、第4次多文化共生プランを抜本的に見直し、市民の不安を解消する具体的な安全対策と総量規制を盛り込むよう強く求める。
6	行政側は、外国人が転入する際に、手続きの一環として外国人の日本語能力、必要な生活支援を把握することが必要と考える。それに合わせて、転入後、日本語教育、日本での生活の注意点（文化の違い、ごみ分別、ゴミ出しのルールなど）の教育、生活支援を提供していくことが必要ではないか。
7	多文化共生推進プランの理念等は理解するが、文化や価値観の違いによる摩擦、ルール逸脱等への対応、リスク管理が不足していると感じている。松本の秩序や市民の安心にかかわる点で、理念よりも実効性と安全管理、リスク管理を要望する。
8	外国人との共生社会を築くには、日本や松本の文化が愛され、真の豊かさと真の幸福を希求していく仲間づくりが必要と考える。松本で暮らす方、観光で訪れる方には日本のルールやマナーを順守し、治安や秩序を乱してほしくはない。豊かな人生を過ごす場所として選ばれ、文化を共創してほしいと切望する。